

CASBEE[®] - 建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	東大阪市新旭町庁舎	階数	地上3
建設地	東大阪市旭町143番1の一部	構造	RC造
用途地域	近隣商業地域、準防火地域	平均居住人員	XX 人
地域区分	5地域	年間使用時間	2,573 時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年9月 予定	評価の実施日	2018年5月25日
敷地面積	3,804 m ²	作成者	江角 毅
建築面積	1,514 m ²	確認日	2018年5月29日
延床面積	3,288 m ²	確認者	小林 直紀

外観パース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.8

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100% (138 kg-CO₂/年・m²)

②建築物の取組み 76% (92 kg-CO₂/年・m²)

③上記+②以外の 76%

④上記+ 76%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 3.3

Q1 室内環境 Q1のスコア = 3.5

音環境	4.8
温熱環境	3.0
光・視環境	3.2
空気質環境	3.8

Q2 サービス性能 Q2のスコア = 3.7

機能性	3.9
耐用性	3.5
対応性	3.6

Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 2.7

生物環境	2.0
まちなみ	3.0
地域性・	3.0

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.7

LR1 エネルギー LR1のスコア = 4.0

建物外皮の	5.0
自然エネ	3.0
設備システ	4.3
効率的	3.0

LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 3.7

水資源	3.8
非再生材料の	3.7
汚染物質	3.9

LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.2

地球温暖化	3.9
地域環境	3.0
周辺環境	2.9

3 設計上の配慮事項		
総合	その他	
自然エネルギーや省エネルギー建材、機器を数多く活用し、環境負荷低減を図ります。また、環境負荷低減策の『見える化』を行うことで、まちや来庁者への環境啓発を推進します。地域、歴史、環境、くらしを結ぶ機能的でシンプルな新庁舎。自然災害に対応した災害対応拠点の構築。ひと・まち・地球にやさしいリーディング拠点をつくる。	現庁舎の建材を加工し再利用します。同事業で隣接敷地に潤い広場、コンビニを設け、ひとと緑とくらしが結び空間づくりを行う。	
Q1 室内環境 外壁はコンクリート壁で遮音し、開口部の遮音性能をT-2等級とし、熱負荷の多い窓面にはブラインドを設けエアフローにより負荷を低減し横窓で通風と採光のある空間を生み出し、VOC(ホルムアルデヒド等)についても規制	Q2 サービス性能 OAフロアーを設置しフレキシブルな空間とし、バリアフリー新法を満足し、サイン等も充実させユニバーサルデザインとしている。躯体は耐震性能を高め、外装材には耐久性の高い低汚染材を使用し、内装材等も防汚性や抗菌性の	Q3 室外環境(敷地内) 建物を敷地中央に配置し、日影影響や圧迫感を低減します。屋上緑化、北側道路の緑地帯により街並みに潤いを与える景観を形成します。屋上室外機置場は高さ4mの壁で囲い騒音対策をおこなう。
LR1 エネルギー 空調・換気においては各室で温度設定が可能な高効率ヒートポンプITONを採用。自然通風ができる開閉窓と全熱交換器による効率化、換気センサーにより外気量の変风量制御を行い、省エネルギーを図る。照明制御では、人感センサーを設置、又点灯区分の細分化、LEDの採用により照明	LR2 資源・マテリアル グリーン購入法によるリサイクル資材の採用。断熱材等のノンフロン材の採用。化学物質排出把握促進法の対象物質を含有しない建材を使用する。廃棄物の発生抑制の為、デッキスラブを採用し型枠材の削減、旧庁舎の建材の再利用を行う。(図書室カウンター、引手、旧サッシ枠の再利	LR3 敷地外環境 大気汚染の原因である燃焼機器の不採用。緊急排水層を設け敷地外への汚染水の流出を防いでいます。ゴミ置場スペースの確保と分別回収の取り組み。屋上室外機置場はコンクリート壁で囲い騒音に配慮。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2, LR1, LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

大阪府建築物環境配慮評価システム2018年版 大阪府の重点評価(結果)

受付番号

H30-0029

Osakafu-新築・既存 2018V1.0

【建物概要】		建物名称	新旭町庁舎						
		建設地	東大阪市旭町143番1の一部						
		用途/区分	事務所						
【評価結果】	CASBEE 総合評価					A			
①	CO2削減					4			
②	みどり・ヒート アイランド対策					2			
③	建物の断熱性					5			
④	エネルギー削減					4			
⑤	自然エネルギー直接利用					—			
		再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	○	風力	—	地熱	—	—
			太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—	—
エネルギー消費量の報告						報告しない			
【評価項目】									
項目		評価内容				スコア	評価		
① CO2削減		CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価				3.9	4		
② みどり・ヒートアイランド対策									
生物環境の保全と創出		CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価				2.0	2		
敷地内温熱環境の向上		CASBEE「Q3-3. 2」のスコアによる評価				3.0			
温熱環境悪化の改善		CASBEE「LR3-2. 2」のスコアによる評価				2.0			
③ 建物外皮の熱負荷抑制		CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価				5.0	5		
④ 設備システムの高効率化		CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価				4.3	4		
⑤ 自然エネルギー利用		CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価				3.0	—		
エネルギー消費の実態把握に努める		エネルギー消費量の実績を3年間報告する。				報告する 報告しない	報告しない		
その他									
		技術の名称			考慮事項				
先進的技術の導入									
特に配慮した事項									